

津波避難施設住民説明会議事概要（11月3日）

1 基準水位・想定津波・施設の高さ等

- ①藤沢市での最大津波高が江の島で11.5mだが、片瀬西浜海岸では8.8mの高さになることで間違いないか。そうであれば想定津波の基準水位等の説明が理解できる。
→藤沢市の最大津波高につきましては、湘南港海岸（江の島沖合30m）で11.5m、藤沢海岸（西浜海岸沖合30m）で8.8mになる。
- ②境川河口から遡上した津波が堤防護岸を越えることで、本施設周辺がどの様に影響を受けるのか説明して欲しい。
→資料2 地域断面図で説明
- ③想定津波について、現在の最新の科学的知見を用いて検討しているとのことだが、今後新たな要素が出たら変わるのか。
→今回の見直しと同じく、新たな要素が出たら変わる可能性はある。
現在、確認できる科学的知見の中で、シュミレーションし、浸水想定を設定している。今後、科学技術の進歩等があった場合は、再度検証する可能性はある。
- ④以前の湘南白百合学園幼稚園の新園舎建設の際には、津波を考慮して高さ10m以上の避難床を建設したと聞いた。本施設についても、避難床の高さを同様に高くすべきではないか。
→学校法人湘南白百合学園等が報道関係に配布した資料を参考に説明。
湘南白百合学園幼稚園の校舎は、建物敷地の面積が1000㎡以上あることから、高さ規制を特例として10mから12mまで緩和できるため、3階建ての建物を建設した。そのため、避難床の高さが10m以上になったもので、津波の影響を考慮した避難床の高さではない。本施設については、1,000㎡以下の敷地であることから、建築高が最大10m以下で計画することになる。
なお、新園舎建設計画における想定浸水深は、当初より約3.5mで計画している。

2 設備等

- ①トイレはやはり仮設ではなく本設にして欲しい。
→津波避難施設については、本設のトイレよりも備蓄の簡易トイレを使用する方が有効と考えており、本設ではなく備蓄の方向で、何日間分確保するか検討している。
- ②東日本大震災の例の様に、本施設で数日間過ごすこと等を考えると、やはり風雨に備えた屋根及び部屋が欲しい。
→基準水位や津波による浮遊物の影響を考慮した緩衝空間の安全性等を踏まえ、高さ・日陰・容積率等の建築条件及び避難人員の増減を含め、避難床の高さや面積等を検討する中で屋根や部屋についても検討していく。

- ③ 本施設敷地の道路側も緑化する等、景観に配慮して欲しい。
→計画地は、住宅地であることから、景観は配慮しなければならないと考えている。詳細は基本・実施設計の中で検討していく。
- ④ 倉庫等の拡充や、数日間過ごすための十分な備蓄が欲しい。
→倉庫の拡充については②と同様
備蓄については、その他の津波避難所の状況も含め検討していく。

3 避難所関係

- ①自宅からどこへ逃げたら良いのか分からない。津波に対する西浜町内会の避難計画や住民の避難場所等を教えて欲しい。
→現状は西浜町内会で作成した、西浜地区津波防災マップを活用してもらいたい。計画する避難施設完了後は、この地区の避難計画や避難場所について地域と共に再検討していく。
- ②避難人員の積算方法や、避難面積を1人当たり0.6㎡で計算している根拠を説明して欲しい。
→避難人員につきましては、平成27年国勢調査のデータを基に、図で示す(赤色)範囲の人数で算出している。
避難面積の根拠については、藤沢市地域防災計画の避難対策計画の中で、避難場所の整備における津波一時避難場所の1人当たりの必要面積を0.6㎡としている。
- ③本施設から避難所までの移動手段を説明して欲しい。
→移動については、その時の状況により変わってくるので、答えられない。
岩手県大船渡市の事例では、ヘリコプターによる救助と自衛隊や警察が随行して歩いて避難所まで移動したと聞いている。

4 その他

- ①片瀬は、江の島で守られている。関東大震災の津波でも被害があったが、江の島が防波堤の役割をして津波の威力を小さくしてくれたおかげで、少ない被害で済んだと聞いている。
- ③ 津波警報等、住民への周知体制をもっと整備して欲しい。
→市では国からきた情報をすぐ伝えられる(Jアラート)の体系をとっている。

以 上